

共同プレスリリース

第19回TPP交渉会合の間、 閣僚指示によって交渉官の作業が活性化

バンドル・スリ・ブガワン、ブルネイ — 環太平洋パートナーシップ（TPP）参加国の交渉官は、最終的な交渉において残るセンシティブで困難な課題や課題の順序付けについて取り得る着地点について議論するために、ブルネイ・ダルサラームにおいて先週、会合を開いた閣僚の指示を受けて、各国間の立場の違いを狭めるために、今週、作業を活性化させた。TPP参加国（オーストラリア、ブルネイ・ダルサラーム、カナダ、チリ、日本、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、米国、ベトナム）の閣僚会合において、域内の貿易投資を増やし、イノベーションや競争、経済成長や開発を促進し、各国内での雇用の創出・維持を支える、野心的でバランスの取れた21世紀型の協定を達成するための指示が交渉官に与えられた。

交渉官は、閣僚の関与と交渉を積極的に先導するコミットメントに後押しされ、市場アクセス、原産地規則、投資、金融サービス、知的財産、競争、環境に関するテキストについて、今次会合で技術的な作業を進めた。また、交渉官は、物品、サービス、投資、金融サービス、一時的入国、政府調達の世界市場に対して、相互にアクセスさせるパッケージを進展させた。全体及び二国間の議論は、多くの課題に対して創造的かつ現実的な解決策を作り出し、残る作業をさらに絞り込むことに成功した。また、今週、労働を担当する交渉官は、労働章において残る課題について作業を継続した。

交渉官は、今後の交渉の方向性を認識し、来週以降も、引き続き作業を進めるために再度中間会合を開催する予定である。全体会合の前に国内での協議に時間を要したために今回の会合において集まらなかったTBT、電子商取引、法的事項を含む、いくつかのその他の作業部会も、中間会合を行う予定である。例年のようにTPP首脳が集まると見込まれる、インドネシア・バリのAPEC首脳会議に至るまで、中間会合において作業を行い、交渉の更なる進展を図る予定である。この会合は、12か国が、今年、この画期的な協定を妥結するために集中的に作業を進めていく上で重要な節目となるであろう。

交渉官がTPP関係地域から集まった150名のステークホルダーと現場で交流するため、8月27日、TPP交渉は一時休止した。ステークホルダーは、交渉官に対し幅広い事項にわたってプレゼンテーションを行い、首席交渉官も、特定の関心事項について詳細に議論するため、ステークホルダーと非公式に接触した。